

2019 年冬カモ科野鳥カウント調査結果

— 県内における生息数の分布図について —

日本野鳥の会埼玉 調査部

1. はじめに

調査では 18 種、9,586 羽のカモ科野鳥、そしてカワウ 416 羽が記録された（『しらこぼと』2019 年 6 月号）。数、種類ともに昨年より減少した。

昨年に引き続き、調査員の協力により基準地域メッシュ（＝3 次メッシュ）単位のカモ科野鳥の数が得られたので、数を伴った分布図を作成することとした。

2. 分布図の作成

基準地域メッシュ単位のデータを野鳥データベースに入力し、2017 年 4 月の『しらこぼと』増刊号で発表した野鳥分布調査と同様に、データベースから 5 倍メッシュ（面積約 25km²）単位で Excel 形式の集計データを出力した。次に、そのデータを Excel「ひな形ファイル」に入力し、グラフ作成機能で分布図を作成した。

得られたデータは、昨年同様 5 倍メッシュ数で 46 となった。

それぞれの分布図では、5 倍メッシュごとの数を表の 6 段階の○で示した。

表 凡例と数の関係

凡例	カモ科総数	種数	種別総数
●	800～999	11～12	400～499
●	600～799	9～10	300～399
●	400～599	7～8	200～299
●	200～399	5～6	100～199
○	100～199	3～4	50～99
○	1～99	1～2	1～49

5 倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の総数の分布は図 1 に示すとおりであった。具体的な数値で言えば、最多区画は 714 羽、最少区画は 6 羽であった。

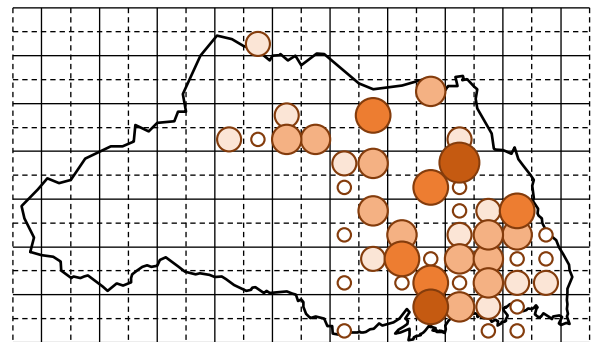


図 1 カモ科野鳥の 5 倍メッシュごとの総数

5 倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の種数の分布は図 2 に示すとおりであった。具体的な数値で言えば、最多区画は 11 種、最少区画は 1 種であった。

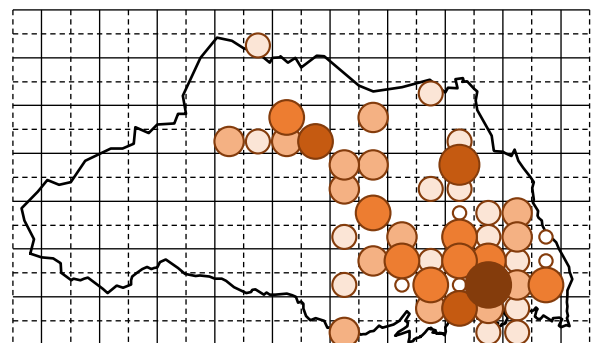


図 2 カモ科野鳥の 5 倍メッシュごとの種数

5 倍メッシュ区画におけるカモ科野鳥の種別総数の分布は、P. 3～P. 5 に示したとおりであった。種名の後の（ ）内は生息数の範囲と 5 倍メッシュの区画数である。同時にカウントしたカワウも参考として末尾に示した。

なお、5倍メッシュ区画と市役所、区役所、町役場の位置関係は、図3に示すとおりである。

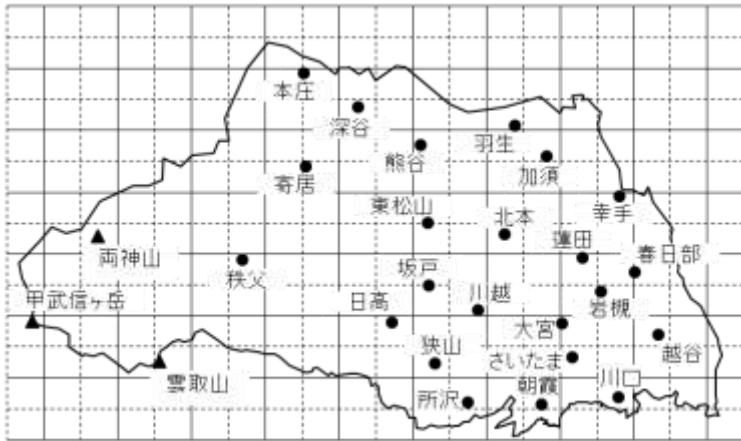
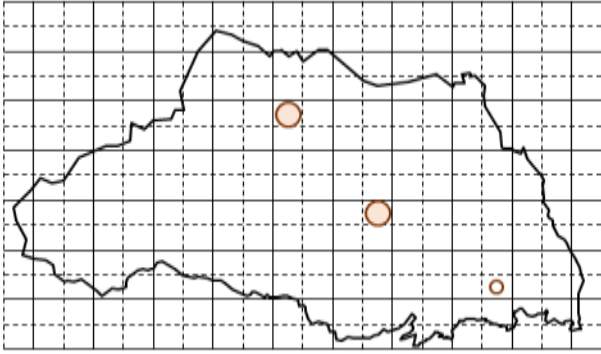
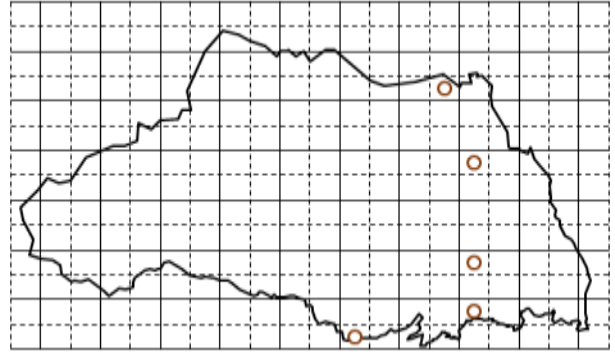


図3 5倍メッシュ区画と主な都市

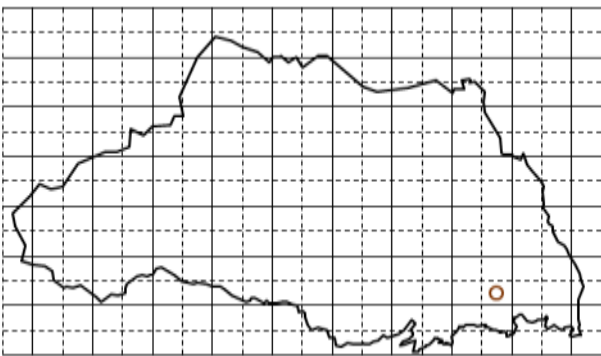
1. コハクチョウ (1~76羽、3区画)



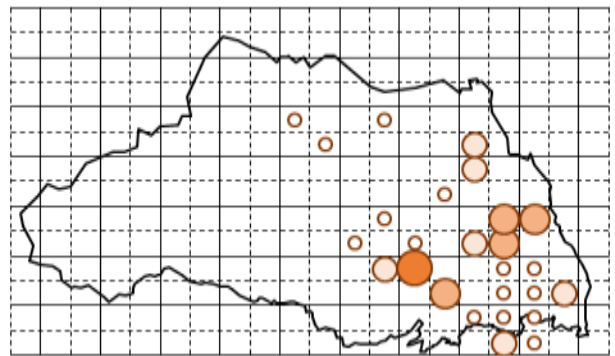
5. ヨシガモ (1~46羽、5区画)



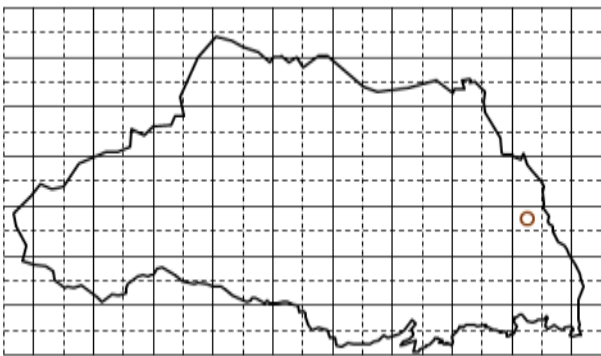
2. オオハクチョウ (6羽、1区画)



6. ヒドリガモ (2~254羽、26区画)



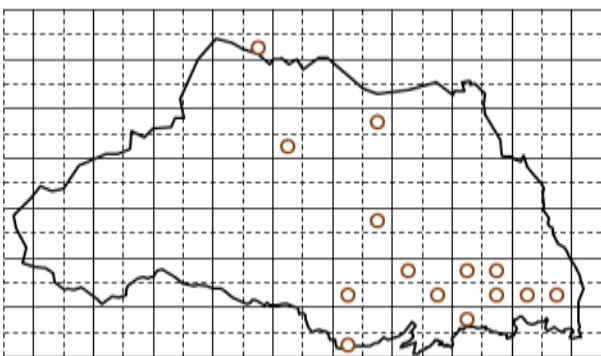
3. オシドリ (1羽、1区画)



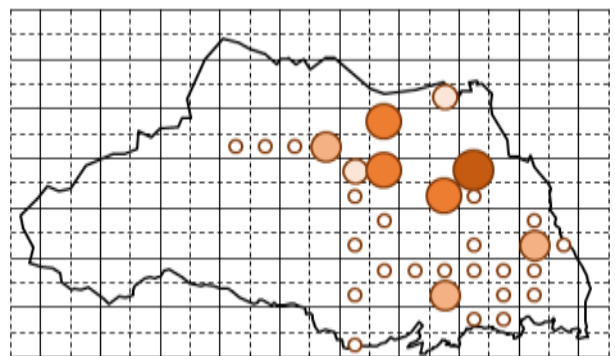
7. アメリカヒドリ (0羽、0区画)

(今回は記録なし)

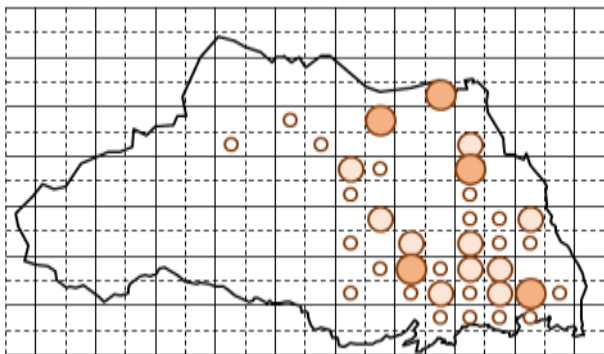
4. オカヨシガモ (2~25羽、14区画)



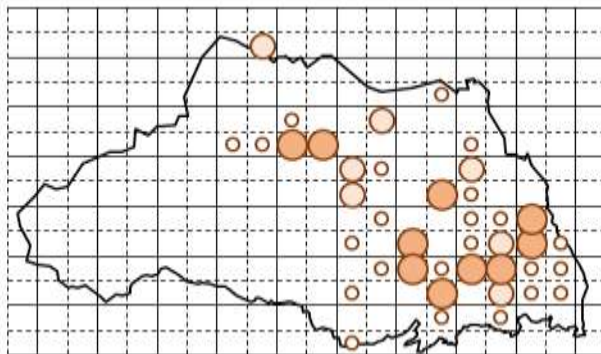
8. マガモ (1~343羽、31区画)



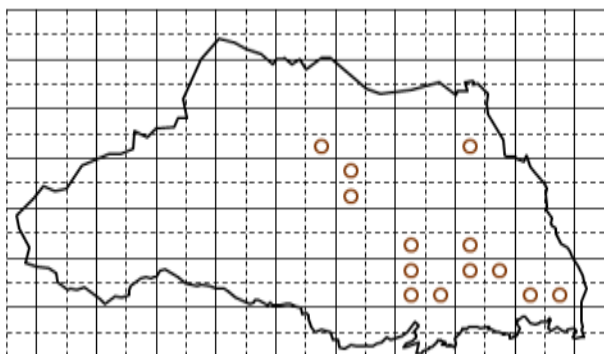
9. カルガモ (2~176羽、36区画)



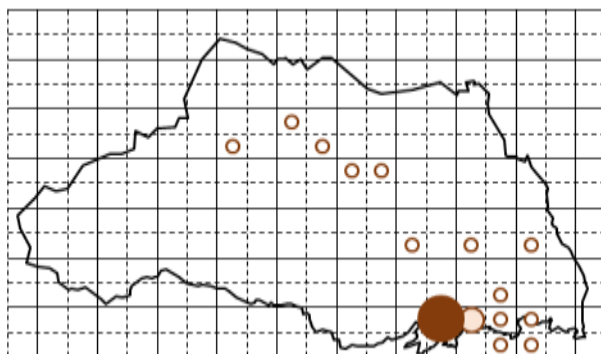
13. コガモ (3~189羽、40区画)



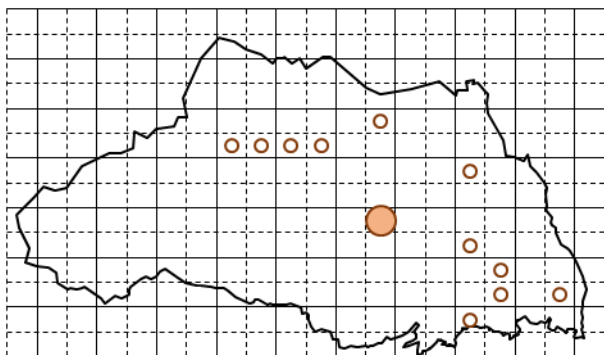
10. ハシビロガモ (1~22羽、13区画)



14. ホシハジロ (1~497羽、15区画)



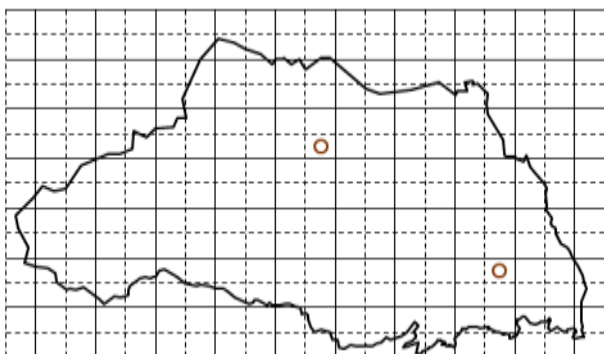
11. オナガガモ (1~115羽、12区画)



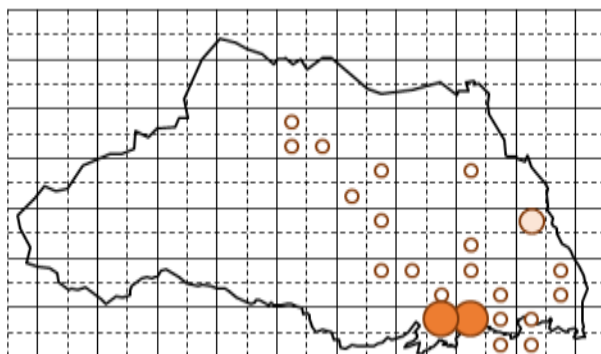
15. アカハジロ (0羽、0区画)

(今回は記録なし)

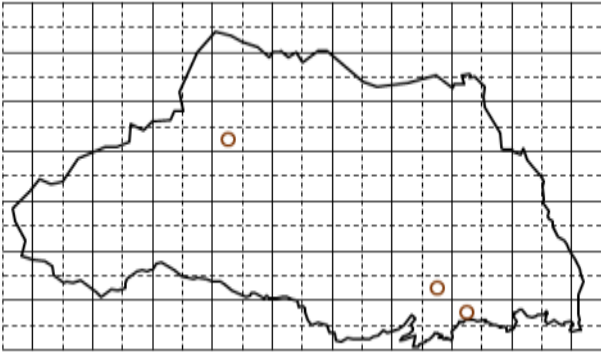
12. トモエガモ (1羽、2区画)



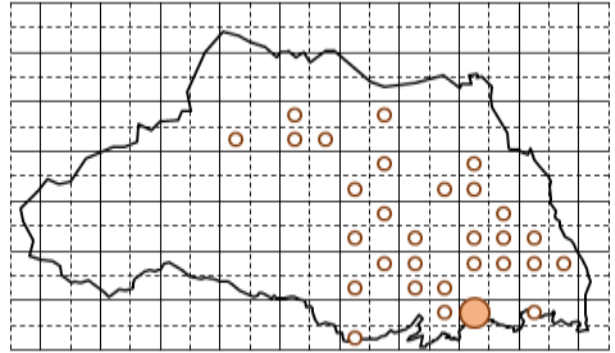
16. キンクロハジロ (1~267羽、22区画)



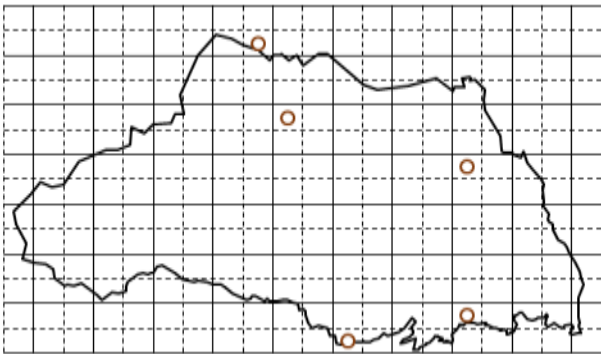
17. スズガモ (1~45羽、3区画)



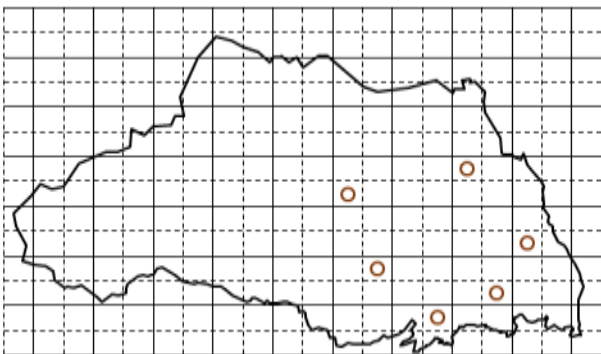
参考：カワウ (1~166羽、30区画)



18. ホオジロガモ (1~26羽、5区画)



19. ミコアイサ (1~6羽、6区画)



20. カワアイサ (3羽、1区画)

